

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

むつ市教育委員会

## □1 調査の目的

本調査は、文部科学省が学校の設置管理者等の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## □2 調査の対象学年

小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

## □3 調査の内容

### (1) 教科に関する調査 【小学校：国語、算数 中学校：国語、数学】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下の通りとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題。

### (2) 生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査

- 児童生徒に対する調査  
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査
- 学校に対する調査  
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## □4 調査の方式

悉皆調査（対象学年の全児童生徒が参加）

## □5 調査期日

令和3年 5月27日（木）

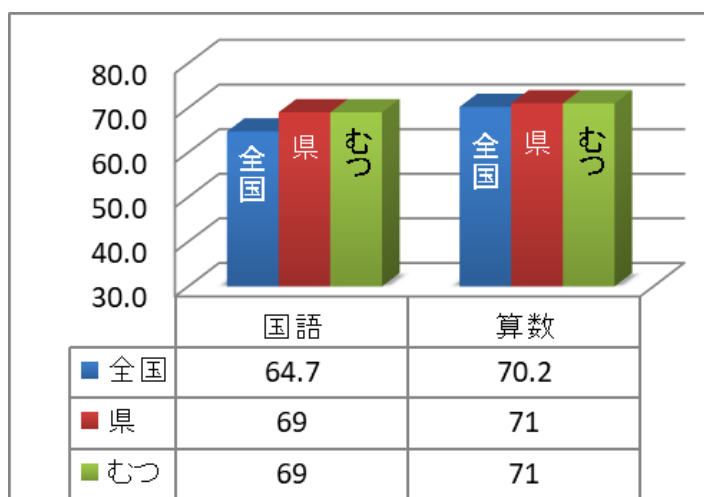
## □6 調査を実施した児童生徒数

	児童数	生徒数
全国（公立）	994,101人	903,253人
青森県（公立）	8,759人	8,965人
むつ市	375人	413人

## □7 学力調査の結果

報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の数値は整数値での発表となっている。

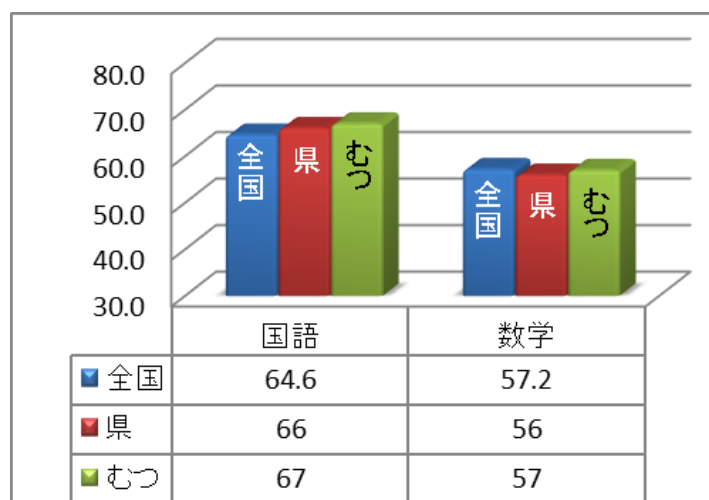
### ■①小学校6年生



#### 国語、算数

全国平均を上回り、県平均と同値。

### ■②中学校3年生



#### 国語

全国平均・県平均を上回る。

#### 数学

全国平均とほぼ同値で、県平均を上回る。

## □8 質問紙調査の結果（本市の実態）

領 域	本市児童生徒の傾向 ○…小・中共通    ㊦…小学校    ㊧…中学校
基本的な生活習慣等	○毎朝同じくらいの時刻に起き、朝食を食べるなど、規則正しいリズムで生活している。
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	○将来の夢や目標をもっている。 ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている。 ○人の役に立つ人間になりたいと思っている。 ○友達と協力するのは楽しいと思っている。
学習習慣、学習環境等	○自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合が全国・県平均より高い。 ○新聞を読む児童生徒の割合が全国・県平均より高い。 ○学習塾や家庭教師の先生（インターネットを通じて教わることも含む）に教わっている児童生徒の割合が、全国平均より低い。
地域や社会に関わる活動の状況等	○地域の行事に参加している児童生徒、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童生徒の割合が、全国・県平均より高い。
ICT を活用した学習状況	○学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思っている。 ○友達と意見交換をしたり調べたりするために、学校で ICT 機器を使用している児童生徒の割合が全国・県平均より低い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	○話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞き、自分の考えも伝えている。 ㊦学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。 ㊧話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳	○学級活動での話し合いを生かして、学級生活をよりよくしようとしていたり、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んだりしている児童生徒の割合が全国平均より高い。 ㊦総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 ㊧道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
学習に対する興味関心や授業の理解度等	○授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。 ㊦国語の勉強が好きで、授業の内容がよくわかると感じている。 ㊧数学の勉強が好きで、大切だと思ったり、数学の授業で学習したことを普段の生活に活用しようとしていたりしている生徒の割合が、全国・県平均より高い。
新型コロナウイルス感染症の影響	○休校期間中、計画的に学習を続けることができたと感じている児童生徒の割合が、全国・県平均より高い。

## □ 9 学力と相関関係があった質問項目

学力と相関関係があった質問項目から、正答率が高かった児童生徒には、次のような傾向が見られた。

### ■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- ・自分と違う意見について考えるのが楽しいと思っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にしたり、表現を工夫したりして書いたりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしている。
- ・算数・数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。

## □ 10 今後、重点的に取り組んでいきたいこと

- 児童生徒の学習意欲と自信を高めながら、「知識・技能」「活用する力」を一体的に伸ばすこと。
- 各教科等の学習で、筋道立て考え、自分の考えをわかりやすく説明したり書いたりする力を高めること。
- 本や新聞を読むことを一層推進し、読解力の向上を図ること。
- 目的に応じて、効果的に ICT 機器を使った授業を展開していくこと。

**今後も地域や家庭と共に、小・中学校が連携して取り組む小中一貫教育を通して、児童・生徒の更なる成長を目指し、教育活動の充実に努めて参ります。**